

授業科目	こどもと音楽B（器楽）		授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当者	白崎直季、吉田美紀、佐々木寿子、若狭智子、佐藤慈成						
ナンバリング	E22S178	開講時期	1 年次後期 ～ 2 年次前期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	この授業の目的は、豊かな音楽表現のための知識やピアノ演奏技術の向上、音楽を取り入れた保育教材研究をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。また、グループワークや発表を通して、豊かな表現活動を実践する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 童謡など、こどもの歌の簡易伴奏を弾くことができる。</li> <li>・ 読譜能力を身につける。</li> <li>・ 手遊びなどを用い、豊かな表現活動ができる。</li> <li>・ 手遊びを用い、豊かな表現活動ができる。</li> <li>・ 音楽を取り入れた保育教材の作成、実践のための技術を身につける。</li> <li>・ 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクション				
		内容	授業の概要についてと、課題曲の実践をする。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 手遊びや、それぞれに与えられた課題曲を練習する。				
	第2回	テーマ	教育実習に向けての課題研究①手遊び				
		内容	実習に向けて、それぞれの年齢に応じた手遊びを習得し、実践する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 手遊びのレパートリーを増やす。 復習： 学修した手遊びをノートにまとめ、いつでもできるように練習をする。				
		テーマ	教育実習に向けての課題研究②弾き歌い				
	第4回	内容	実習に向けて、季節の歌や、童謡などを弾き歌いできるようにそれぞれの課題を実践する。				
		授業時間外学修	予習： 季節の歌、童謡の課題曲を練習する。 復習： それぞれに与えられた課題曲を練習する。				
		テーマ	課題発表会				
	第4回	内容	前回の授業までに習得した課題を人前で披露する。				
		授業時間外学修	予習： 発表会に向けてのそれぞれの課題曲を練習する。 復習： 発表会について振り返り、それぞれの課題をまとめる。				

第 5 回	テーマ	保育実習に向けての課題研究①保育教材の研究
	内 容	音楽を用いた模擬保育演習の実践に向けて、計画を立てる。
	授業時間外 学修	予習： 模擬保育演習に向けて、教材を作成する。 復習： 模擬保育演習に向けての計画案を作成する。
第 6 回	テーマ	保育実習に向けての課題研究②手遊び
	内 容	実習に向けて、それぞれの年齢に応じた手遊びを習得し、実践する。
	授業時間外 学修	予習： 0歳児から5歳児まで、それぞれに対応できる手遊びについて調べてくる。 復習： 模擬保育演習に向けての計画案を完成させる。
第 7 回	テーマ	保育実習に向けての課題研究③こどもの歌
	内 容	音楽を用いた模擬保育演習に向けて、それぞれが立てた計画案を実践する。また、グループワークを通して、学生同士で計画案についての話し合いを行う。
	授業時間外 学修	予習： それぞれが立てた模擬保育演習の練習をする。 復習： 模擬保育演習に向けてそれぞれの課題を確認し、練習する。
第 8 回	テーマ	模擬保育演習
	内 容	前回の授業までに準備した内容を実際に演習し、課題発見をする。
	授業時間外 学修	予習： それぞれが立てた模擬保育演習の練習をする。 復習： 演習を振り返り、保育実習に向けてそれぞれの課題点をまとめる
第 9 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（1）季節の歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ季節の歌についての課題を実践する。
	授業時間外 学修	予習： 季節の歌についての課題曲を準備する 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 10 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（2）こどもの歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれこどもの歌についての課題を実践する。
	授業時間外 学修	予習： こどもの歌についての課題曲を準備する 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 11 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（3）弾き歌い
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を実践する。
	授業時間外 学修	予習： 弾き歌いについての課題曲を準備する 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 12 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（4）実技試験に向けての実践①
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 13 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（5）実技試験に向けての実践②
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 14 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（6）実技試験に向けての実践③
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。
	授業時間外	予習： 課題曲を練習する。

	学修	復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第15回	テーマ	実技試験
	内容	これまでの各自の進捗に応じた学習を発表し、人前で披露する力を養う。
	授業時間外学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： 発表を振り返り、自らの課題についてまとめる。
第16回	テーマ	課題発表会に向けて（1）こどもの歌
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれこどもの歌について新しい課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第17回	テーマ	課題発表会に向けて（2）手遊び
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ手遊びについて新しい課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第18回	テーマ	課題発表会に向けて（3）課題曲
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれバイエルなどの新しい課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲を練習する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第19回	テーマ	課題発表会
	内容	前回までに習得した課題を人前で披露し、振り返りを行う。
	授業時間外学修	予習： 発表会に向けての実技の練習をする。 復習： 発表会で見つけたそれぞれの課題についてまとめる。
第20回	テーマ	保育実習に向けての課題研究（1）保育教材の研究
	内容	音楽を用いた模擬保育演習の実践に向けて、計画を立てる。
	授業時間外学修	予習： 模擬保育演習に向けて、教材を作成する。 復習： 模擬保育演習に向けての計画案を作成する。
第21回	テーマ	保育実習に向けての課題研究②手遊び
	内容	実習に向けて、それぞれの年齢に応じた手遊びを習得し、実践する。
	授業時間外学修	予習： 0歳児から5歳児まで、それぞれに対応できる手遊びについて調べてくる。 復習： 模擬保育演習に向けての計画案を完成させる。
第22回	テーマ	保育実習に向けての課題研究③こどもの歌
	内容	音楽を用いた模擬保育演習に向けて、それぞれが立てた計画案を実践する。また、グループワークを通して、学生同士で計画案についての話し合いを行い、計画を改善する。
	授業時間外学修	予習： それぞれが立てた模擬保育演習の練習をする。 復習： 模擬保育演習に向けてそれぞれの課題を確認し、練習する。
第23回	テーマ	模擬保育演習
	内容	前回の授業までに準備した内容を実際に演習し、課題発見をする。
	授業時間外学修	予習： それぞれが立てた模擬保育演習の練習をする。 復習： 保育実習に向けてそれぞれの課題を確認し、実習に生かせるように課題点をまとめる。

第 24 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（7）季節の歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ季節の歌についての課題を实践する。
授業時間外 学修	予習：	季節の歌についての課題曲を準備する
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 25 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（8）こどもの歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれこどもの歌についての課題を实践する。
授業時間外 学修	予習：	こどもの歌についての課題曲を準備する
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 26 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（9）弾き歌い
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を实践する。
授業時間外 学修	予習：	弾き歌いについての課題曲を準備する
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 27 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（10）実技試験に向けての实践①
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
授業時間外 学修	予習：	課題曲を練習する。
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 28 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（11）実技試験に向けての实践②
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
授業時間外 学修	予習：	課題曲を練習する。
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 29 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（12）実技試験に向けての实践③
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
授業時間外 学修	予習：	課題曲を練習する。
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 30 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（13）実技試験に向けての实践④
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。
授業時間外 学修	予習：	課題曲を練習する。
	復習：	それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 31 回		実技試験
教科書・テキスト	歌唱教材伴奏法（教育芸術社） ピアノ小曲集 1（音楽之友社） こどもの歌ベストテン（ドレミ出版）	
参考書・参考資料等	なし。	
成績評価の 方法・基準	実技試験と授業後に提出するレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度（70%）、 「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	実技試験について、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。	
備 考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。	
連絡先（質問等）	オフィスアワー 火曜日 12:25～12:50 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。	

授業科目	こどもと音楽C（歌）		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	高橋寛						
ナンバリング	E22S179	開講時期	2年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、世代を超えて愛唱されている楽曲を知り、その魅力を理解する。多様な種類の施設を利用する人たちとのコミュニケーションの有効な手段として、音楽や身体表現を活用できるようになることを目指す。少人数のグループによる発表や、それに対する教員と学生たちの相互発信による評価をもとに、フィードバックが自身の成長の糧となることに気付く。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代を超えて愛唱されている楽曲を知りその魅力を理解できる。</li> <li>・ 童謡・唱歌、昭和の流行歌などの成り立ちと、その時代背景との関係性を知り、学ぶ。</li> <li>・ 「新しい手遊び歌」を知り、楽しみ方を理解する。</li> <li>・ 「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことが出来る」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	明治から大正にかけての童謡と唱歌①				
		内容	明治、大正時代に国策で誕生した「唱歌」を知り、その良さを理解する。				
	授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読する。 1年次で学んだ内容を、見直しておく。				
		復習:	授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 学生自身の記憶する「伝承歌」「わらべ歌」などを、家族の協力も得て、書き出しておく。				
	第2回	テーマ	明治から大正にかけての童謡と唱歌②				
		内容	明治、大正時代に国策で誕生した「唱歌」を復習し、その良さを再確認する。				
	授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 「唱歌」「童謡」「こどもの歌」という呼称について、1年次に学習した内容を見直しておく。				
		復習:	授業内容を振り返り、要点や義民店を整理する。 「唱歌」を愛する世代と、その要因について考察する。				
	第3回	テーマ	昭和から平成にかけての子どもの歌①				
内容		やや新しい時代の子どもの歌について学び、その良さを知る。					
授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 教科書の中から、好きな童謡を見つけておく。					
復習:	授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。						

		未知の童謡の中からも、好きな作品を見つける。
第4回	テーマ	昭和から平成にかけての子どもの歌②
	内容	やや新しい時代の子どもの歌について学び、その良さを知る。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 教科書の中から、生活指導の為に作られたであろう作品を、見つけておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 作家や作品が誕生した当時の世相を、再確認する。</p>
第5回	テーマ	明治から大正にかけての流行歌
	内容	時代を超えて愛唱されている流行歌に触れ、その魅力を味わう。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 教科書「シニア世代の思い出ソング」に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 その作品の生まれた時代、歌詞や音楽的な特徴を理解し、反芻する。</p>
第6回	テーマ	昭和前期の流行歌
	内容	「懐メロ」と呼ばれるこの時代の流行歌に触れ、その魅力を味わう。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 教科書「シニア世代の思い出ソング」に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 その作品の生まれた時代、歌詞や音楽的な特徴を理解し、反芻する。</p>
第7回	テーマ	昭和後期の流行歌
	内容	高度成長期以降のヒット曲を知り、その魅力を味わう。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 教科書「シニア世代の思い出ソング」に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 人の心に「思い出と楽曲がリンクする」不思議さを味わう。これからの介護福祉職就労者には、必須の「世代の歌」である。</p>
第8回	テーマ	各時代の流行歌を合唱してみる。
	内容	「歌声喫茶」「反戦フォーク」「グループサウンズ」などの時代の若者文化を知り、それらの流行歌を合唱する喜びを味わう。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 なぜ、その楽曲が流行したか、時代背景をリサーチしておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 使い方によっては、音楽は人心を扇動する道具になることを、再確認する。</p>
第9回	テーマ	「人間オーケストラ」の再確認と復習
	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、楽しさを味わう。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次の学習体験を見直しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 保育の現場での実践にどう活用するか、シミュレーションしてみる。</p>

	第10回	テーマ	音楽の基礎理論の再確認
		内容	1年次で学んだ音楽理論を復習し、確認する。
		授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次の授業記録に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 忘れていた部分を自身の中に補てんしておく。</p>
	第11回	テーマ	ピアノによるコード理論の再確認
		内容	1年次に使用した平易なコード進行による楽曲で、理論を再確認する。
		授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次の授業記録に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 平易なコード進行による楽曲を、暗譜してみる。</p>
	第12回	テーマ	人体の生理と感情の表出について
		内容	原始的（動物的）な生き方と、幼児・老人のその類似点を探る
		授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次の授業記録に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 よりアナログなコミュニケーション能力を獲得できるように、日常の生き方を考えてみる。</p>
	第13回	テーマ	脱力体操と横隔膜式呼吸法の再確認
		内容	1年次で学んだ脱力体操と呼吸法を確認する
		授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 前回の授業ともリンクした内容を、確認しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 「生き物として」の呼吸であることを日常でも意識してみる。</p>
第14回	テーマ	「マン・ウォッチング」の重要性と「セブン・ミニッツ・ショウ」の楽しさの再確認	
	内容	演劇的なワークにチャレンジすることの意義を再確認する	
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次の授業記録に目を通しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 保育の現場で、子どもたちの活動にどう活かすことができるか、考える</p>	
第15回	テーマ	絵本の読み聞かせの肝要点とピアノによる弾き歌い方法の再確認	
	内容	幼児期にどんな絵本や音楽に触れたかは、その人の人間形成に反映されることを、事例とともに学び、幼児教育者が良質の作品を用意すべき必要・責任を自覚する。、	
	授業時間外学修	<p>予習： 前回の授業内容を反芻する。 教科書やプリントの中から、子どもたちに読み、歌い継がせたい作品や楽曲を、探しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 「歌い継がせたい作品」として列挙された楽曲を、ピアノを使って弾き歌いできるようにしてみる。</p>	
教科書・テキスト	こどもの歌ベストテン（ドレミ出版）		

	ピアノ・コードの押さえ方（ドレミ出版） シニア世代の思い出ソング（ドレミ出版）
参考書・参考資料等	数種類の「こどもの歌」のプリント（教員自身の編曲による、平易な弾き歌い用の楽譜）
成績評価の方法・基準	レポートや毎回の演習の様子により、こどもの歌を中心とした①音楽基礎の領域理解度（15%）、②専門的技術習得度（25%）、「学び続け、成長し続ける能力」（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技術習得の努力度（15%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業後に出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后公表する。演習については、教員と学生の相互発信による評価を授業時毎に実施する。
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、事業計画で示された内容を実施する。 テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（1時間） 教員と学生の相互評価の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（1時間）
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、音楽を主とする舞台活動の専門家として40年以上のキャリアを持ち、特に子ども向けのコンサートや、遊び場作りの企画には経験が豊富である。童謡のCDにも歌手として参加するなど「音楽をコミュニケーションの手段として実践する現役」としての具体的な事例も含めた授業を行う。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 月曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	図画工作Ⅱ		授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	城山萌々					
ナンバリング	E22S181	開講時期	2年次後期	授業時間数	60 時間	授業回数 30 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	粘土から空想の生き物を作り、絵本を制作する「うよもん」、「ぴかぴか泥だんご」、「張子お面づくり」、「影絵」などを行う。素材で遊びながらプロセスを大切にしながら、作品として作り上げる。作品発表（プレゼンテーション）や共同制作（グループワーク）を通して自分の考えを伝える。また、他者の表現や考えを受け入れたり参考にしたりする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと様々な造形活動に取り組み、造形の喜びや楽しさを感じる。</li> <li>・様々な素材を使った表現方法を実践し、造形活動に関する見識を深める。</li> <li>・幼児の造形活動を主導する視点を持って、制作活動を行うことができる。</li> <li>・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>					
授業計画	第1,2回	テーマ	オリエンテーション・ぐりぐりクレヨン			
		内容	クレヨンを塗り重ね、抽象画を描く。クレヨンを重ねることのできる表面の質感や色の変化を楽しみながら、画材の使用法の幅を広げる。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを読む。 復習： ポートフォリオを作成する。			
	第3,4回	テーマ	うよもん①			
		内容	学校内を散歩し、うよもん（モンスター）が潜んでいそうな場所を探す。紙粘土で空想のモンスターを制作する。			
		授業時間外学修	予習： うよもん（モンスター）が潜んでいそうな場所を探す。 復習： ポートフォリオを作成する。			
	第5,6回	テーマ	うよもん②			
		内容	着色など、紙粘土での制作の仕上げをする。制作したうよもんを様々な場所に設置し、スマートフォンで撮影する。短編アニメーション等を参照しながら、動画撮影のイメージを膨らませる。			
		授業時間外学修	予習： うよもんの撮影場所を考える。 復習： ポートフォリオを作成する。			
	第7,8回	テーマ	うよもん③			
		内容	撮影したうよもんを編集し、アニメーション動画を制作する。完成した動画はクラウドサービス等を利用して共有し、プレゼンテーションを行う。			
		授業時間外学修	予習： アニメーションの流れを考える。 復習： ポートフォリオを作成する。			

第 9, 10 回	テーマ	土粘土遊び
	内 容	幼稚園の園児と一緒に大量の土粘土で遊ぶ。作品を完成させるという縛りのない造形活動の意義を考える。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p. 28～30 を読む。 復習： ポートフォリオを作成する。
第 11, 12 回	テーマ	張子でお面づくり①
	内 容	様々なお面を鑑賞し、オリジナルお面づくりを行う。土粘土を土台として、形をつくる。
	授業時間外 学修	予習： 張子の技法について調べる。お面のデザインを考える。 (顔の形や誇張表現) 復習： ポートフォリオを作成する。
第 13, 14 回	テーマ	張子でお面づくり①
	内 容	様々なお面を鑑賞し、オリジナルお面づくりを行う。土粘土を土台として、新聞紙をボンドで張り込む。
	授業時間外 学修	予習： お面のデザインを考える。(表情、色彩) 復習： ポートフォリオを作成する。
第 15, 16 回	テーマ	張子でお面づくり②
	内 容	土台の上から新聞紙を糊で張り込む。
	授業時間外 学修	予習： お面のデザインを考える。(色彩) 復習： ポートフォリオを作成する。
第 17, 18 回	テーマ	絵本の制作①まる絵本
	内 容	絵本の絵とストーリーの構成についての理解を深めるため、まる絵本を制作する。
	授業時間外 学修	予習： 0～2 歳児向けの絵本をリサーチして読む。 復習： ポートフォリオを作成する。
第 19, 20 回	テーマ	絵本の制作②絵や色彩から物語をイメージする。
	内 容	物語を想定せずに色や線に注目して絵を作る。
	授業時間外 学修	予習： 3～5 歳児向けの絵本をリサーチして読む。 復習： ポートフォリオを作成する。
第 21, 22 回	テーマ	絵本の制作③絵や色彩から物語をイメージする
	内 容	出来上がった絵を並べ、ストーリーや順番を考える。製本し、言葉や画面の展開に合わせて文字を入れる。
	授業時間外 学修	予習： 絵本のストーリーを考える。 復習： ポートフォリオを作成する。
第 23, 24 回	テーマ	操り人形づくり①
	内 容	身近な材料を集めて操り人形を作る。
	授業時間外 学修	予習： 人形に使いそうな素材を集める。 復習： ポートフォリオを作成する。
第 25, 26 回	テーマ	操り人形づくり②
	内 容	操り人形を組み立てる。動かして遊び、互いの作品を鑑賞する。
	授業時間外 学修	予習： 操り人形のデザインを考える。 復習： ポートフォリオを作成する。

	第 27, 28 回	テーマ	パステルステンシルで旗づくり、ステンシルでゴミ箱デザイン
		内 容	パステルでどんな描き方ができるか試す。気に入った模様を切り抜き、旗にする。クリアファイルでステンシルの方を作り、絵具やスプレーを使ったステンシル版画を制作する。
		授業時間外 学修	予習： パステルとクレヨンの違いについて、リサーチする。教科書 p. 44 を読む。 復習： ポートフォリオを作成する。
	第 29, 30 回	テーマ	まとめ -レッジョ・エミリアの保育実践について-
		内 容	レッジョ・エミリアの保育実践をDVDで鑑賞し、自分たちの実習と比較する。就職後に自分が行いたい保育について考える。
		授業時間外 学修	予習： レッジョ・エミリアの保育実践について、リサーチする。 復習： ポートフォリオを作成する。
教科書・テキスト	保育をひらく造形表現（槇英子著 萌文書林）		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	提出作品・レポート・発表による専門技能の習得、アイデア、工夫の程度（50%）、「フィードバック能力」（1）獲得の程度（20%）、出席状況、授業参加度（30%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	制作した作品や発表について、授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	作品の提出に向け、制作する。（約9時間）ポートフォリオを作成する。（約9時間） 上記を除いた予習（各授業回約15分）、復習（各授業回約15分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約6時間）		
備 考	—		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 木曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	体育		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	小田幹雄						
ナンバリング	E22S182	開講時期	2年次通年	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>現代の子どもがおかれている環境をよく知り、健やかに成長するための幼児期の運動遊びの目的と必要性を理解する。また、多様な運動遊びを体験する中で、その魅力を見だし、子どもにその醍醐味を伝えられるようになるとともに、運動遊びを通して子どもにどのような能力が身に付くのかを理解しながら、子どもの発育・発達にどう貢献していくかを共に考えていく。</p> <p>実技を中心に行うが、必要に応じて座学での授業を実施する。授業内容によっては、グループ活動で教材研究、発表等も行う。なお、課題の内容によりスマートフォン等から、Google form への回答を求める場合もある。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な運動あそびを実践し、その魅力を理解する。</li> <li>・運動あそびによって身に付く能力を理解する。</li> <li>・子どもの意欲を引き出す環境設定、運動あそびの指導計画の作成及び実践ができる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を育てる。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	ガイダンス・運動遊びにおける保育者の役割				
		内容	授業の概要について理解する。 運動遊びにおける保育者の役割について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第2回	テーマ	現代の子どものからだの変化と幼児体育の意義				
		内容	現代の子どもを取り巻く環境とそれに伴うからだの変化について考える。 幼児体育の意義を確認する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 自分の幼児期や実習中の幼児の様子等を確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
		テーマ	鬼ごっこの実際と展開及び指導法1				
	第4回	内容	鬼ごっこを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第4回	テーマ	鬼ごっこの実際と展開及び指導法2				
		内容	オリジナルの鬼ごっこを考え、実践、評価を行う。				
	第4回	授業時間外学修	予習： 事前に案をまとめて教員に提出し、確認や助言をしてもらい修正をする。 必要物品の準備やシミュレーションをする。				

		復習： 実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
第5回	テーマ	鬼ごっこの実際と展開及び指導法 3
	内容	オリジナルの鬼ごっこを考え、実践、評価を行う。
	授業時間外学修	予習： 事前に案をまとめて教員に確認や助言をしてもらい修正をする。 必要物品の準備やシミュレーションをする。 復習： 実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
第6回	テーマ	鬼ごっこの実際と展開及び指導法 4
	内容	オリジナルの鬼ごっこを考え、実践、評価を行う。
	授業時間外学修	予習： 事前に案をまとめて教員に確認や助言をしてもらい修正をする。 必要物品の準備やシミュレーションをする。 復習： 実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
第7回	テーマ	鬼ごっこの実際と展開及び指導法 5
	内容	オリジナルの鬼ごっこを考え、実践、評価を行う。
	授業時間外学修	予習： 事前に案をまとめて教員に確認や助言をしてもらい修正をする。 必要物品の準備やシミュレーションをする。 復習： 実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
第8回	テーマ	コーディネーション能力について
	内容	コーディネーション能力について理解する。
	授業時間外学修	予習： 自分の幼児期や実習の際の幼児の様子等を確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第9回	テーマ	コーディネーショントレーニング
	内容	コーディネーション能力を高める活動を実践する。
	授業時間外学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第10回	テーマ	投動作と遊び
	内容	投動作の要素が含まれる遊びを実践する。
	授業時間外学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第11回	テーマ	スポーツの意義
	内容	スポーツの意義について考える。
	授業時間外学修	予習： 自分の幼児期や実習の際の幼児の様子等を確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第12回	テーマ	現代の幼児の体力
	内容	過去と比較した現代の幼児の体力レベルについて把握する。
	授業時間外学修	予習： 自分の幼児期や実習の際の幼児の様子等を確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第13回	テーマ	大型遊具を使った遊び 1 (スラックライン)
	内容	資料映像を鑑賞し、実践しながら特徴と使用方法を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第	テーマ	大型遊具を使った遊び2 (スラックライン)

14 回	内 容	スラックラインの様々な活動を実践する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 15 回	テーマ	まとめ
	内 容	これまでの授業を振り返り、運動遊びにおける保育者のスタンスを考える。
	授業時間外 学修	予習： これまでの学習を確認する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 16 回	テーマ
	内 容	後期からの授業概要について理解する。 幼児期運動指針の内容について理解を深める。
	授業時間外 学修	予習： 幼児期運動指針を確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 17 回	テーマ	様々な道具を使った遊び 1
	内 容	ディスクやスティックを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 18 回	テーマ
	内 容	ネイチャーゲームについて理解を深め、五感を使い様々な自然体験をする。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 19 回	テーマ	ネイチャーゲーム 2
	内 容	フィールドビンゴの作成と実施をする
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 20 回	テーマ
	内 容	授業内での体験を中心にグループでサーキットコースを提案し、実践する。
	授業時間外 学修	予習： 事前に案をまとめて教員に確認や助言をしてもらい修正をする。 必要物品の準備やシミュレーションをする。 復習： 実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
第 21 回	テーマ	大型遊具を使った遊び 3 (パラバルーン)
	内 容	資料映像を鑑賞し、実践しながら特徴と使用方法を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 22 回	テーマ
	内 容	パラバルーンを用いての表現をグループ毎に創作する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 23 回	テーマ	大型遊具を使った遊び 5 (パラバルーン)
	内 容	パラバルーンを用いての表現をグループ毎に練習する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。

第 24 回	テーマ	大型遊具を使った遊び6（バラバルーン）
	内 容	バラバルーンを用いての表現をグループ毎に発表する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 25 回	テーマ	様々な道具を使った遊び2
	内 容	縄跳びやゴムを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 26 回	テーマ	マット運動
	内 容	マット運動の実践を通し、その特徴と年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習： 授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 27 回	テーマ	グループ演習（模擬保育）の計画と準備
	内 容	グループ毎、模擬保育の指導案を作成し、教材の確認や事前練習、役割分担等について話し合いや準備を行う。
	授業時間外 学修	予習： 事前配布した指導案を完成させておく。 グループで指導案の内容を共通理解し、準備と実践を振り返り、自己評価した内容を記録し提出する。
第 28 回	テーマ	グループ演習（模擬保育）1
	内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
	授業時間外 学修	予習： 模擬保育の内容の確認や準備を行う。 模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
第 29 回	テーマ	グループ演習（模擬保育）2
	内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
	授業時間外 学修	予習： 模擬保育の内容の確認や準備を行う。 模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
第 30 回	テーマ	グループ演習（模擬保育）3
	内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
	授業時間外 学修	予習： 模擬保育の内容の確認や準備を行う。 模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
教科書・テキスト	授業内容に応じて適宜資料を配付する。	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領<平成29年告示>（フレーベル館） 保育所保育指針<平成29年告示>（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>（フレーベル館）	

	コンパス 幼児期の体育-動きを通して心を育む- (建帛社) 幼児期における運動発達と運動遊びの指導 (ミネルヴァ書房)
成績評価の方法・基準	実践活動と課題レポートの提出により、「体育」の理解と実践力の程度 (65%)、「自分で考え、実践できる能力」(4) 獲得の程度 (20%)、授業参加度 (15%) で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業時に提出された課題レポートについては内容を確認後に講評する。
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。 グループ毎の指導案の作成、教材の準備、実践の打ち合わせ及び振り返りの記録とまとめ (約 6 時間) フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。 (約 3 時間)
備考	運動に適した服装とシューズを着用し授業を受けること。 運動に制限がある学生は事前に申告すること。
連絡先 (質問等)	オフィスアワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室にて質問を受ける。

授業科目	国語表現法		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	柏倉弘和						
ナンバリング	E32L183	開講時期	2年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	文章を書くためには書く内容と表現の仕方が必要であることを学ぶ。また、様々な優れた文章を模範とし、その特徴（文体、語彙、着想、構成等）をまねながらいろいろなテーマで書く練習を行い、文章力を磨いていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く内容を適切に考えることができる。</li> <li>・いろいろな表現の仕方について理解することができる。</li> <li>・より良い表現を工夫することができる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	文章を書くために必要なこと				
		内容	書く内容と表現の仕方が大切であることを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	表現の仕方の練習				
		内容	「好きな食べ物」というテーマで文章を書く。				
	授業時間外学修	予習：好きな食べ物についてまとめておく。					
		復習：書いた文章について課題を整理する。					
	第3回	テーマ	テーマへのアプローチ				
		内容	前時に書いた文章を資料として、テーマへのアプローチの仕方を学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。					
		復習：返却された文章を書き直してみる。					
	第4回	テーマ	材料と設定				
		内容	「十年後の私」というテーマで文章を書く。				
	授業時間外学修	予習：十年後の自分を想像し、まとめておく。					
		復習：書いた文章について課題を整理する。					
	第5回	テーマ	個性的な表現とは				
		内容	前時に書いた文章を資料として、紋切型と通念化について学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。					
復習：返却された文章を書き直してみる。							
第6回	テーマ	想像力と文章					
	内容	音楽を聴いて心に浮かんだことを文章にする。					

回	授業時間外学修	予習：好きな音楽を聴いて想像力を働かせてみる。 復習：書いた文章について課題を整理する。
第7回	テーマ	想像したことをどう表現するか。
	内容	前時に書いた文章を資料として、心に浮かんだことをどのように表現するか考える。
回	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。 復習：返却された文章を書き直してみる。
第8回	テーマ	体験したことをどう表現するか。
	内容	実習を振り返って文章を書く。
回	授業時間外学修	予習：実習日誌を読み返しておく。 復習：書いた文章について課題を整理する。
第9回	テーマ	場面を選ぶ。
	内容	前時に書いた文章を資料として、場面の切り取り方について学ぶ。
回	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。 復習：返却された文章を書き直してみる。
第10回	テーマ	考えを表現する。
	内容	「恋愛について」というテーマで文章を書く。
回	授業時間外学修	予習：自分の恋愛について振り返る。 復習：書いた文章について課題を整理する。
第11回	テーマ	考えと具体性
	内容	前時に書いた文章を資料として、具体的に書くことについて学ぶ。
回	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。 復習：返却された文章を書き直してみる。
第12回	テーマ	感想とは何か。
	内容	映画を観て感想を書く。
回	授業時間外学修	予習：観たい映画を考えておく。 復習：書いた文章について課題を整理する。
第13回	テーマ	感想をどう書くか。
	内容	前時に書いた文章を資料として、根拠について学ぶ。
回	授業時間外学修	予習：課題の解決について考える。 復習：返却された文章を書き直してみる。
第14回	テーマ	文章を書くことの意義
	内容	文章を書くことについて、自分の考えや感じたこと等を書く。
回	授業時間外学修	予習：文章を書いてきた体験を振り返る。 復習：書いた文章について課題を整理する。
第15回	テーマ	まとめ
	内容	これまでの授業内容を振り返り、文章を書くことについてまとめを行う。
回	授業時間外学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点をまとめる。 復習：疑問点について既習内容を確認する。
	第16回	小レポート
教科書・テキスト	授業中に適宜資料等を配付する。	

参考書・参考資料等	言語表現法講義（加藤典洋著 岩波書店）
成績評価の方法・基準	小レポートと授業中に書いて提出する文章により、書く内容の考察と表現の理解・工夫の程度（65%）、「コミュニケーション能力」（3）獲得の程度（20%）、授業参加度（15%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された文章については、次回の授業において解説する。小レポートについては、採点后講評する。
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。授業中の資料や返却された文章を見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。 （約 45 時間） 小レポートに向けて、授業内容を踏まえて構想を練る。（約 1 時間）
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、文章を書くことについて具体的な事例を挙げながら授業を行う。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	保育内容（表現）		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	白崎直季、小田幹雄、城山萌々						
ナンバリング	E22S184	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期における表現活動の意味や役割について、様々な素材の活用や動き・音・制作・お話等の多様な表現方法による実践を通して理解する。</li> <li>・具体的な保育場面を想定し、幼児の豊かな感性と表現を引き出すための保育実践能力を身につける。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己表現力を引き出すための即興表現を重視した実践活動を通し、多様なコミュニケーションの方法を探り、実践することができる。</li> <li>・総合活動としての表現活動を様々な角度から実践的に体得する。</li> <li>・幼児の豊かな感性と表現力を引き出すための指導法について考え、実践することができる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	領域「表現」について				
		内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)に示されている「表現」の意味や内容、配慮事項について学ぶ。また、人間にとっての表現の意味や内容について理解するため、レッジョ・エミリアの幼児教育について理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第2回	テーマ	墨汁による表現				
		内容	墨汁・紙コップ・ロール紙を用いたグループでの表現活動。				
		授業時間外学修	予習：墨汁の活動に適した服装や環境を整えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第3回	テーマ	墨汁による表現遊びの展開①				
		内容	前回の墨汁による作品を、様々な素材も加えて創作活動を展開する。				
		授業時間外学修	予習：製作した墨汁の作品を見ながら展開の仕方について考えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第4回	テーマ	墨汁による表現遊びの展開②				
		内容	前回の作品に身近な素材を加えて創作活動を展開し、出来上がった作品を発表する。				
		授業時間外学修	予習：製作した作品を見ながら展開の仕方について考えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
第5回	テーマ	ICTを用いた表現活動について					

5 回	内 容	情報端末を使い、多様な表現方法(音・動き・描くこと等など)による「ストップモーションムービー」の企画を考える。
	授業時間外 学修	予習：「ストップモーションムービー」の企画案を考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第 6 回	テーマ	ICTを用いた表現活動についての実践
	内 容	各グループの企画に沿って、ストップモーションムービーを制作する。
授業時間外 学修	予習：ストップモーションムービーの企画に沿って、内容や表現方法について見直してくる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 7 回	テーマ	ICTを用いた表現活動についての振り返り
	内 容	各グループのストップモーションムービーを鑑賞し振り返る。
授業時間外 学修	予習：ストップモーションムービーの企画に沿って、内容や表現方法について見直してくる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 8 回	テーマ	身体表現について
	内 容	身体を使った表現活動をグループごとに企画する。
授業時間外 学修	予習：身体を使った表現活動の企画を考えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 9 回	テーマ	身体表現についての実践
	内 容	各グループの企画に沿って、パフォーマンスを行う。
授業時間外 学修	予習：各グループの企画に沿って、内容や表現方法について見直してくる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 10 回	テーマ	子どもの表現遊びについて
	内 容	実習を振り返り、幼児期の表現活動の意味や内容についての理解を深めるため、学生の意見をポストイットに書き込み、グループディスカッションを行う。
授業時間外 学修	予習：実習時の子どもの表現活動内容についてまとめておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 11 回	テーマ	おたよりの制作①
	内 容	幼児の表現活動を伝えるための記録について学ぶ。
授業時間外 学修	予習：必要な機材を準備する。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 12 回	テーマ	おたよりの制作②
	内 容	幼児の表現活動を伝えるため、クラウド上にアップされた素材を用いて、デジタルデバイスを使用して制作する。
授業時間外 学修	予習：お便り製作に必要な素材を準備する。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
第 13 回	テーマ	身体表現によるコミュニケーション①
	内 容	障がい者と健常者との表現活動に関する映像資料を視聴し、表現とコミュニケーションについて考える。視聴内容について、各自テーマを付け、表現とコミュニケーションについてレポートをまとめる。
授業時間外	予習：映像資料に関する配布資料を熟読しておく。	

	学修	復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
	第14回	テーマ	身体表現によるコミュニケーション②
		内容	課題レポートの内容について1分間スピーチを行う。
	授業時間外学修	予習：課題レポートの内容をまとめておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
	第15回	テーマ	まとめ
		内容	これまでの授業を振り返り、表現をテーマにディベートを行う。
授業時間外学修	予習：今までの授業内容について振り返っておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。		
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	<p>表現 I 感性と表現(チャイルド社)</p> <p>表現 II 音楽的表現(チャイルド社)</p> <p>保育内容「表現」 一体で感じる・表す・伝える―(杏林書院)</p> <p>保育の一日とその周辺(フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 フレーベル館)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 フレーベル館)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 フレーベル館)</p> <p>驚くべき学びの世界 -レッジョ・エミリアの世界- (東京カレンダー)</p> <p>その他、授業時に適時配布する資料</p>		
成績評価の方法・基準	課題レポート、及び実践活動より、保育内容「表現」の理解の程度、保育実践力の程度(50%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(30%)で評価する。課題レポート・実践活動については、評価後、講評を行う。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された授業記録、課題レポートについては、次回授業時に解説する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約30分)、復習(各授業回約60分)として、授業計画で示された内容を実施する。発表に向けた作品の創作、及び練習(5時間)。フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約3時間)。		
備考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。		
連絡先(質問等)	<p>オフィスアワー</p> <p>白崎:火曜日 12時25分～12時50分</p> <p>小田:火曜日 12時25分～12時50分</p> <p>城山:水曜日 12時25分～12時50分</p> <p>その他、授業前後およびアポイントにより質問を受ける。</p>		

授業科目	子どもの生活と文化 I		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	柏倉弘和					
ナンバリング	E22S185	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	遊びを通して幼児の生活の実態についての知識を獲得させるとともに、幼児を取り巻く環境の変化や遊びへの影響について考えさせる。以上を踏まえて、集団遊びを考案し、計画を立てて実践を行わせる。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の生活や文化の実態を、遊びを通してとらえることができる。</li> <li>・幼児を取り巻く環境の特質や、遊びに与える影響についても理解し、集団遊びの実践において、PDCA サイクルを実行することができる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につけられる。</li> </ul>					
授業計画	第 1 回	テーマ	幼児の遊びについて、特質等			
		内容	幼児の遊びの内容や特質等について学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第 2 回	テーマ	幼児の遊びの変化について、群れ遊び等			
		内容	群れ遊びの消失等、幼児の遊びの変化に関して、その状況や原因について学ぶ。			
	第 3 回	授業時間外学修	予習： 自分が幼児の頃の遊びについて振り返り、どんな遊びをしていたか整理する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
		テーマ	幼児の生活の実態について			
	第 4 回	内容	資料を用いて幼児の遊びや習いごと、生活リズム等の実態について理解する。			
		授業時間外学修	予習： 幼児の頃どんな生活をしていたか振り返り、整理しておく。 復習： 「子ども白書」等の資料を用いて調べ、幼児の生活の実態についての理解を深める。			
		テーマ	幼児を取り巻く環境の変化について			
	第 5 回	内容	資料を用いて家庭や地域社会等の変化について理解する。			
		授業時間外学修	予習： 幼児の頃、自分の家庭や地域の様子はどのようなようであったか振り返り、まとめる。 復習： 「環境白書」等の資料を用いて調べ、幼児を取り巻く環境の変化についての理解を深める。			
	第 5 回	テーマ	幼児を取り巻く環境の変化が遊びに与える影響について			
		内容	どのような変化がどのような影響を与えているか、環境の変化と遊びの関係について学ぶ。			

	授業時間外 学修	予習： 幼児の頃の外遊びの経験を振り返り、まとめておく。 復習： 実習先の幼児の遊びについて、環境の変化の影響を考えてみる。
第 6 回	テーマ	幼児と映像について
	内容	映像が幼児に与える影響等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼児が普段どんな映像に触れているか調べておく。 復習： 幼児に映像を見せる際の留意点について整理する。
第 7 回	テーマ	集団遊び(1) 意義や特徴について
	内容	集団遊びの、幼児の成長や発達にとっての意義や特徴について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼児の頃、どのような集団遊びをしていたか振り返り、整理しておく。 復習： 幼児にふさわしい集団遊びについて調べ、まとめる。
第 8 回	テーマ	集団遊び(2) 協力や工夫について
	内容	集団遊びが、幼児同士の人間関係等にどのように関わっているか学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼児の頃の集団遊びにおける友だちとの関係について振り返り、整理しておく。 復習： 実習における集団遊びの様子について振り返り、まとめる。
第 9 回	テーマ	集団遊び(3) 指導案の作成について
	内容	これまでに学んだことを踏まえて、現代の幼児にふさわしい集団遊びを取り入れた指導案を考える。
	授業時間外 学修	予習： これまでの授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。 復習： 作成した指導案をもとに腹案について考えてみる。
第 10 回	テーマ	集団遊び(4) 実践の計画について
	内容	幼稚園と打合せをしながら、作成した指導案に基づいて実践する計画を立てる。
	授業時間外 学修	予習： どのような準備が必要かまとめておく。 復習： 実践に必要なものを準備する。
第 11 回	テーマ	集団遊び(5) 幼稚園での実践
	内容	幼稚園で集団遊びの実践を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実践の準備ができているか点検しておく。 復習： 実践を記録する。
第 12 回	テーマ	集団遊び(6) 実践の振り返り
	内容	集団遊びの実践について、記録をもとに振り返る。
	授業時間外 学修	予習： 振り返りの視点を考えておく。 復習： 実践において達成できたことと課題をまとめる。
第 13 回	テーマ	集団遊び(7) 実践の改善
	内容	振り返りで明らかになった課題の改善について考える。
	授業時間外 学修	予習： 実践の課題について確認しておく。 復習： 指導案を書き直しておく。
第 14 回	テーマ	集団遊び(8) 幼稚園での再実践
	内容	課題の改善を図りながら集団遊びの再実践を行う。
	授業時間外 学修	予習： 改善を行うための準備をする。 復習： 再実践を記録する。
第	テーマ	集団遊び(9) 再実践の振り返り

	15	内 容	記録をもとに再実践の振り返りを行う。
	回	授業時間外	予習： 振り返りの視点を考えておく。
		学 修	復習： 再実践において改善できたことと課題をまとめる。
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
成績評価の方法・基準	授業中に行う演習により、言葉の特性や発達過程についての理解の程度（30%）、言葉を活用した保育の構想や改善の達成度（30%）、「自分で考え、実践できる能力」（3）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、次回の授業において解説する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回約 20 分）として、授業計画で示された内容を実施する。授業中の資料や返却された演習ペーパーを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 5 時間）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、幼児と遊びについての理解を深め、遊びを保育に生かす力を高められるよう実践的に授業を行う。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 15 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子どもの生活と文化Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	大類豊太郎					
ナンバリング	E22S186	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	身近な素材利用の活動として、「自然体験」「栽培体験」「科学おもちゃ作り体験」の3つの体験的な演習を実施し、身近な事象について観察や操作を通して幼児との望ましい関わり方を探る。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を利用した活動を体験し、幼児の活動の教材としての利用法・指導法を考えることができる。</li> <li>・幼児の活動を支える材料の利用法、道具の操作法等の技能を身につけることができる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる。」を身につける。</li> </ul>					
授業計画	第1回	テーマ	演習「子どもの生活と文化Ⅱ」の意義と内容			
		内容	保育者の立場で領域「環境」における幼児の活動を体験する本演習のねらいと内容を理解する。演習内容のガイダンスを行う。			
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第2回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。			
		内容	*栽培体験（1回目）ジャガイモ畑作り 校庭にジャガイモ栽培体験用の畑を手作りする。活動の記録写真を撮る。			
		授業時間外学修	予習：次回授業の準備。 復習：記録写真の整理。			
	第3回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。			
		内容	*栽培体験（2回目）ジャガイモの種イモ植え 自分たちで手作りしたジャガイモ畑に種イモを植える。記録写真を撮る。			
		授業時間外学修	予習：次回授業の準備。 復習：ジャガイモ植えのポイントをまとめる。記録写真の整理。			
	第4回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。			
		内容	*作って遊ぶ科学おもちゃ作り（1回目）二連風車作り ・身近な素材を使った風車を作り、回して遊ぶ。記録写真を撮る。			
		授業時間外学修	予習：風車作りのため指定された用具の準備をする。 復習：よく回る風車のポイントを整理する。記録写真の整理。			
	第5回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。			
		内容	*自然体験（1回目）草花のしおりの材料採集と押し花作り			

			学校まわりの農道を散策しながら、季節の植物を観察しながら、草花のしおり作りの材料を採集し、教室に戻って、押し花・押し葉作りをする。記録写真を撮る。
		授業時間外 学修	予習：野外活動できる服装の用意。 復習：押し葉作りのポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第6回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
		内 容	*栽培体験（3回目）畑の除草、ジャガイモの芽かき、追肥 ジャガイモの芽の観察、芽かきの方法理解と実践、畑の除草、追肥をする。 野外観察：畑の動植物に触れて遊ぶ。記録写真を撮る。
		授業時間外 学修	予習：次回授業の準備。 復習：ジャガイモの芽かきと追肥のポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第7回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
		内 容	*作って遊ぶ科学おもちゃ作り（2回目）篠竹製紙玉空気でっぽう作り 身近な材料（篠竹、竹箸など）を切出しナイフ1丁で紙玉空気でっぽうに仕上げ、紙玉を飛ばして遊ぶ。記録写真を撮る。 切出しナイフの特長を体験的に学び、使い方を身に付ける。 空気でっぽうの仕組みを体験的につかむ。
		授業時間外 学修	予習：切出しナイフの準備。 篠竹製紙玉空気でっぽう作りのポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第8回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
		内 容	*自然体験（2回目）草花遊び・野外観察（道端の植物と動物） 草や木で花かんむり、笹舟を作ったり、草相撲をして遊んだりする。記録写真を撮る。
		授業時間外 学修	予習：野外活動の服装準備。 復習：草花遊びのポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第9回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
内 容		*作って遊ぶ科学おもちゃ作り（3回目）牛乳パックのトンボ作り 身近な素材を使ってできるトンボを作り、飛ばして楽しむ。記録写真を撮る。	
授業時間外 学修		予習：特になし 復習：飛ぶ「トンボ」の特徴をまとめる。記録写真の整理。	
第10回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。	
	内 容	*自然体験（3回目）草花しおり作り 領域「環境」の活動指導案作成 事前に作った草花しおり用の押し花を使って、草花しおりを作る。記録写真を撮る。 レポートの指導案について共通理解を図る。	
	授業時間外 学修	予習：次回授業の準備。 復習：草花しおり作りのポイントをまとめる。指導案を書く。	
第11回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。	
	内 容	*自然体験（4回目）虫探し 近くの寺社林で幼児の好きな虫探しを体験する。記録写真を撮る。	
	授業時間外	予習：蚊が出る時期なので、防虫対策と次回授業の準備。	

		学修	復習：虫探しのポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第12回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
		内容	*作って遊ぶ科学おもちゃ作り（4回目）竹トンボ作り I 身近な素材の竹を切出しナイフで削り、竹トンボのパーツを作る。記録写真を撮る。
		授業時間外学修	予習：切出しナイフの準備。 復習：竹トンボ作りのポイントをまとめる。記録写真の整理。
	第13回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に保育者としての技能を身に付ける。
		内容	*作って遊ぶ科学おもちゃ作り（5回目）竹トンボ作りの仕上げと飛ばし方 前時で作った竹トンボを仕上げ、飛ばし方を練習しながら遊ぶ。記録写真を撮る。
		授業時間外学修	予習：次回授業の準備。 復習：竹トンボを飛ばすコツをまとめる。記録写真の整理。
	第14回	テーマ	領域「環境」の活動を想定した演習を中心に、保育者としての技能を身に付ける。
		内容	*栽培学習（5回目）ジャガイモ収穫 自分たちで育てたジャガイモを収穫し、畑を片付けて感謝のセレモニーをする。 収穫したジャガイモをグループ毎に一人一人に分ける。記録写真を撮る。
		授業時間外学修	予習：栽培学習の服装準備。 復習：ジャガイモの収穫の仕方をまとめる。記録写真の整理)
	第15回	テーマ	身近な素材を利用した活動のまとめ
		内容	記録映像の活用（記録写真を使って、園便りを作って、学習のまとめをする）
		授業時間外学修	予習：園便りに使う記録写真を選び、プリントアウトする。 復習：学習を振り返り、課題の成果をまとめる。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	保育内容環境の実際（伊神大四郎他 建帛社）		
成績評価の方法・基準	身近な素材を利用した領域「環境」の指導法の理解の程度（60%） 「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度（20%） 身近な素材と幼児との望ましい関わり方の理解の程度（20%）		
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	演習内容のポイントをまとめ、保育現場に生きて働くようにする。（各時間約30分） 自分で実践したい環境「領域」の保育活動指導案をレポート作成し提出する。（約1～2時間）		
備考	幼稚園、保育所等の実務経験はないが、小学校教員として37年間勤務し、理科教育の実践や管理職の経験を有する。 *授業第2～14回は季節や天候によって活動が制限されるので、前時に次時の連絡を行う。		
連絡先（質問等）	授業前後に、講師控室や教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子どもの生活と文化Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高桑秀郎						
ナンバリング	E22S187	開講時期	2年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>附属幼稚園の園児を短大の校舎に招いて、保育活動の実践を行う。複数回の実践を通し、計画・立案・実践・評価・改善のプロセスと教材研究能力、計画、準備段階での環境構成能力を養って行く。</p> <p>グループワークを中心とし、計画・評価の段階でミーティングを行う。他グループに協力を仰ぐ際、プレゼンテーションを行い、自分たちの保育案について趣旨説明を行う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象園児に適した保育活動をグループで企画・実践できる能力を身に付ける。</li> <li>・協力者に的確な指示を与えるなど、保育活動に必要なマンパワーの掌握に関する能力を身に付ける。</li> <li>・他者の保育活動の観察を通じ、他者の活動の反省を自己の計画に活かすことができるようになる。</li> <li>・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身に付ける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	グループ活動のポイントと役割分担の重要性				
		内容	昨年度の活動を参考に、授業の進め方、主体的な活動の重要性を理解する				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	保育計画Ⅰ（グループ分けと保育のねらいの決定）				
		内容	保育計画を進めるグループを作成し、グループで保育活動の方向性を議論する				
	授業時間外学修	予習：保育雑誌に目を通し、興味ある保育教材を持ち寄る					
		復習：授業内容を振り返り、保育教材の有効な使い方を考察する					
	第3回	テーマ	保育計画Ⅱ（主たる活動と必要となる準備物）				
		内容	保育活動のテーマを決定し、大まかな保育の流れと必要となる教材を確定し、役割の分担を行う				
	授業時間外学修	予習：前回の話し合いを元に使える教材を準備する					
		復習：授業内容を振り返り、自分の役割を確認し、これからの計画を立てる					
	第4回	テーマ	保育計画Ⅲ（保育教材の作成と準備）				
		内容	保育計画を元に日案作成、準備物を具体的に制作する				
	授業時間外学修	予習：役割分担に基づき、保育に必要な材料等を準備する					
		復習：役割分担された保育教材の準備を行う					
第5回	テーマ	保育計画Ⅳ（実践に向けた準備・計画の発表・他グループへの協力要請①）					
	内容	保育実践に向けて保育計画を進め、プレゼンテーションを行う					
授業時間外学修	予習：プレゼンテーションに向けて、保育活動の内容を吟味する						

	学修	復習：質問や意見を参考に保育計画の修正を行い、実践の準備を進める
第6回	テーマ	実践保育Ⅰ－①（全員での準備と環境整備）
	内容	附属園園児を迎え、保育実践を行うための環境整備を行う
	授業時間外学修	予習：日案を確認し、教材の準備を進め、関係部署との連絡を行う 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回	テーマ	実践保育Ⅰ－②（園児を招いての実践保育）
	内容	自分たちで計画した保育を実践する
	授業時間外学修	予習：保育実践に向けて、保育案を見直し、自分の役割を確認しておく 復習：保育実践を振り返り、良かった点、悪かった点をまとめ、文章化しておく
第8回	テーマ	反省と討論会
	内容	1回目の保育実践の振り返り。全体会の後、グループディスカッションを行う
	授業時間外学修	予習：前回の実践の反省をまとめ、発表する内容（自分の意見）を確認しておく 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第9回	テーマ	保育計画Ⅴ（実践に向けた準備・計画の発表・他グループへの協力要請②）
	内容	他グループの反省を元に、自分たちの計画を再確認する 保育実践に向けて保育計画を進め、プレゼンテーションを行う
	授業時間外学修	予習：プレゼンテーションに向けて、保育活動の内容を吟味する 復習：質問や意見を参考に保育計画の修正を行い、実践の準備を進める
第10回	テーマ	実践保育Ⅱ－①（全員での準備と環境整備）
	内容	附属園園児を迎え、保育実践を行うための環境整備を行う
	授業時間外学修	予習：日案を確認し、教材の準備を進め、関係部署との連絡を行う 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	実践保育Ⅱ－②（園児を招いての実践保育）
	内容	自分たちで計画した保育を実践する
	授業時間外学修	予習：保育実践に向けて、保育案を見直し、自分の役割を確認しておく 復習：保育実践を振り返り、良かった点、悪かった点をまとめ、文章化しておく
第12回	テーマ	反省会と討論会
	内容	2回目の保育実践の振り返り。全体会の後、グループディスカッションを行う 前回の実践の反省が効果的に反映されていたかを確認する
	授業時間外学修	予習：前回の実践の反省をまとめ、発表する内容（自分の意見）を確認しておく 復習：反省を元に、具体的な改善策をまとめておく
第13回	テーマ	保育計画Ⅵ（実践に向けた準備・計画の発表・他グループへの協力要請③）
	内容	二回の実践の反省を元に、自分たちの計画を再確認する 保育実践に向けて保育計画を進め、プレゼンテーションを行う
	授業時間外学修	予習：プレゼンテーションに向けて、保育活動の内容を吟味する 復習：質問や意見を参考に保育計画の修正を行い、実践の準備を進める
第14回	テーマ	実践保育Ⅲ－①（全員での準備と環境整備）
	内容	附属園園児を迎え、保育実践を行うための環境整備を行う
	授業時間外学修	予習：日案を確認し、教材の準備を進め、関係部署との連絡を行う 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第	テーマ	実践保育Ⅲ－②（園児を招いての実践保育）

	15	内 容	自分たちで計画した保育を実践する
	回	授業時間外	予習：保育実践に向けて、保育案を見直し、自分の役割を確認しておく
		学修	復習：保育実践を振り返り、良かった点、悪かった点をまとめ、文章化しておく
	第 16	テーマ	反省と授業全体の統括
		内容	保育実践の記録映像を基に実践の反省が生かされてきたかを検討する
回	授業時間外	予習：これまでの保育実践の反省と改善点についてまとめたものを確認する	
		学修	復習：保育の計画と実践において必要なことを再確認し、まとめておく
<b>教科書・テキスト</b>		なし。	
<b>参考書・参考資料等</b>		<p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック（フレール館）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学編）</p>	
<b>成績評価の方法・基準</b>		授業中の活動の様子と提出物から、授業への参加度（30%）、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度（30%）、専門的理解の程度（40%）で評価する。	
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		<p>授業中の活動計画立案の際、活動の振り返りの際に、助言指導を行う。</p> <p>提出物についてはコメントを入れて返却する</p>	
<b>授業時間外学修</b>		<p>予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回 20 分）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>保育実践に向けて保育教材準備等の活動を行う。（約 3 時間）</p> <p>保育実践の結果を踏まえ、自らの役割について自己評価するとともに、評価できる点、改善策をまとめ、今後の学習活動に反映させる（約 2 時間）。</p>	
<b>備 考</b>		-	
<b>連絡先（質問等）</b>		<p>オフィスアワー</p> <p>水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>	